

校訓 「くじけるな のびよ身と心 大望をもて」



あかぎ

赤木名の子らよ、大木になれ・七本のあかぎ

12月号 平成29年12月12日（火）発行

《 いのち チャレンジ（挑戦） 感動 感謝 》

二学期を反省し、新年に挑戦！

校長 前田 和洋

私が小・中学生の頃は、いくら南国奄美といえども、12月は火鉢やコタツを出して暖をとっていたものですが、近年は暖冬といわれて例年より寒い日が少ないように感じます。でも、シマでいう西風が吹くと急に肌寒さを感じ、真冬の到来を学校の木立も教えてくれます。



今年もいよいよ年の瀬が迫ってきました。2学期も大きな事故もなく、全員が元気で終了できそうです。

さて、二学期は一年を通じて最も長い学期でしたが、教科の学習の他に行事も多く、様々なことを学び、たくさんを経験しました。充実の二学期に相応しく、子どもたち一人一人が自覚をもち、大きく成長するとともに文化面や運動面で大いに活躍してくれました。

9月9日の校内相撲大会に始まり、秋季大運動会、市陸上記録会、校内持久走大会といった体育的行事の他、郷土発見学習、学習発表会、市音楽発表会等の文化的行事。地域においては敬老会、招魂祭相撲大会、種おろし、市民体育祭、笠利町内一周駅伝競走大会等にも児童や職員が参加し、地域との一体感や勇気をいただくことができました。



さて、ここから年末に向け過ぎ去りゆく平成29年度を反省し、新しい平成30年への希望を胸に抱くときです。家庭や地域においては一年間の納めであり、新年を迎える準備等であわただしい日々でもあります。そういう慌ただしさの中に、子どもたちを巻き込んでほしいと思います。

家庭や地域に伝えられてきた風習やしきたり等、私たちの先輩・祖先が大切にしてきた文化を身近に接することのできる絶好の機会です。このような体験を積み重ねて、故郷を誇りに思う心が醸成され、やがて「生きる力」につながるものと思います。



二学期も保護者や地域の皆様に変えて大変お世話になりました。本当にありがとうございました。三学期も変わらぬご支援をお願い申し上げます。最後に、新しい年が皆様にとって幸せな一年でありますようご祈念申し上げます。

奄美郷土の先人・（日本復帰の父・泉芳朗）

12月25日は、「奄美群島日本復帰の日」です。当時、私の父はすでに小学校教諭として勤務しておりましたが、郷土の子ども達のために熱い思いと気持ちを持って、古仁屋や宇検村で行われた復帰運動に参加したそうです。幼き頃母が、「奄美復帰の歌」を4番までそらで歌ってくれたのを思い出します。「島の人たちが、一つになって復帰運動に邁進していた熱い時代だったよ。」と語ってくれました。その中心となって祖国復帰運動をリードした方が「泉芳朗」翁です。

泉芳朗は、1905年から1959年に御活躍された方で、1951年（昭和26年）に日本復帰協議会を結成し、リーダーとして断食運動などを行いました。その運動は無暴力主義に貫かれ、大規模なものとなりましたが暴動などは起きず、粛々に行われたと聞いています。そして、1953年（昭和28年）12月25日、ついに奄美群島は祖国復帰を勝ち取りました。

泉芳朗氏は、本校と縁があり、氏の教職員としての初任地が我が赤木名小学校です。沿革史等によると大正13年3月13日鹿児島第二師範学校を卒業され、同3月21日に赤木名尋常高等小学校訓導として赴任されています。資料によると、教壇では学生服の詰襟姿で、厳しく凛とした教授をなさっていたとあります。泉芳朗はペンネームで、旧職員履歴書には、泉敏登（いずみ としのり）の記述があります。本校は1年から2年程度の勤務で、その後古仁屋尋常高等小学校訓導等の教職を経て、詩人、政治家となり名瀬市長も務められています。

12月25日を前に、ご家族で奄美群島祖国復帰や泉芳朗翁について話題にされるといいと思います。